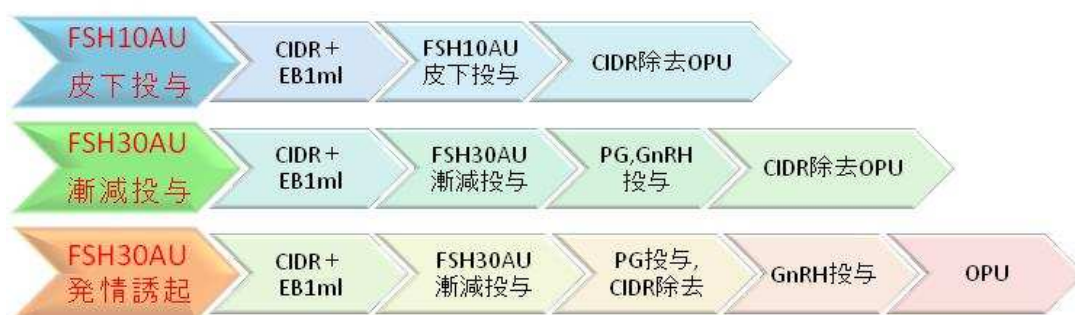


生体内卵子吸引（OPU）前にFSHを投与して効率的に胚盤胞が作成できた

近年、乳用牛の後継牛確保が送れ、牛某稼働率が低下する経営も認められている。そこで、生体内卵子吸引（OPU）技術を利用した優良後継牛の増産を農場で実用化するための実証研究を行った。OPUを行う前に農家の実情に合わせて、FSHを10AU皮下投与、30AU漸減投与、30AU投与に発情誘起処理を加えてOPUを行ったところ、胚盤胞が1頭平均2.7個採れ、当所の過去のFSH無投与の成績（平均0.7個）と比較して高い数値であった。



今回使用した FSH 前処理方法

	試験頭数	卵胞数 (個)	培養卵子数 (個)	卵割率 (%)	胚盤胞数 (個)	胚盤胞率 (%)
FSH前投与区 (H27)	10	27.4	13.3	54.9	2.7	17.7
無投与 (H24)	6	22.0	9.2	64.6	0.7	7.2

試験成績



OPUを行っているところ



採取した卵子



体外受精後の胚盤胞